

こ な と

やっています (その19)

農業・農村経済学プログラム

ここ数年、農業を取り巻く環境は大きく変化しています。特に2024年以降の米価高騰をきっかけに、農業や食料問題への社会的関心は一段と高まりました。こうした中で、私たちの「農業・農村経済学プログラム」が果たす役割はますます重要になっています。

本プログラムのテーマは、食料・農業・農村を軸に「持続可能な社会」を考えることです。農業経済学をコアに据え、健康で豊かな国民生活や社会の持続的発展に貢献できる人材を育成しています。単に農業を学ぶだけでなく、現場の知恵や都市との連携を分析し、新しい社会システムをデザインする力を養うことを目指しています。

特徴の1つは、国際的な学びの場があることです。JICAのABEイニシアチブを通じて、アフリカからの留学生を毎年2～3名受け入れ、日本人院生と一緒に勉強しながらそれぞれの研究を進めています。異なる背景を持つ学生同士が議論を重ねることで、互いに刺激を受け、新しい視点を得ています。「日本の農業はこうなっているんだ」「アフリカではこういう課題があるんだ」という発見は、学生たちにとって大きな財産です。

研究テーマは非常に幅広く、農業経営や地域振興、農福連携といった現場に根ざした課題から、消費者行動や環境問題、さらには国際協力や開発途上国の農業支援まで、多岐にわたります。例えば、地域農業の持続性を高める仕組みづくりや、気候変動と農業の関係、農産物の付加価値向上に関する研究など、社会の変化に即したテーマに積極的に取り組んでいます。こうした多様な研究を通じて、学生たちは「農業をどう守り、どう発展させるか」という大きな問いに挑んでいます。

また、学生たちはフィールドワークやディスカッションを通じて、机上の理論を実践に結びつけています。地域の方々や海外の研究者との交流を通じて得られる学びは、将来のキャリアにおいても大きな強みとなるでしょう。

近年農業や農村を取り巻く課題は、ますます複雑になっています。その解決には、現場で培った知恵や多様な視点が欠かせません。ぜひ、皆さまの経験やアイデアを、これからの学生たちに届けてください。そして、未来の農業・農村を担う若い世代が、安心して挑戦できるよう、温かい応援をお願いいたします。卒業生の皆さまとのネットワークは、学生にとって何よりの励みです。皆さまの声やサポートが、次の時代を切り拓く力になります。

(文責：農業・農村経済学プログラム 杉田 直樹)



写真1：カンボジア農村部での現地調査の様子



写真2：マラウイ共和国の紅茶プランテーション